

映画分析から教材作成へ

『モナリザ・スマイル』‘Mona Lisa Smile’ (2003) 作成者: 國吉 初美

映画紹介 (Outline of the Movie)

『モナリザ・スマイル』は、マサチューセッツ州に実在する名門女子大学ウェルズレー校を舞台に、50年代の教師と学生たちの交流を描いた映画である。

現在は社会で活躍する女性を多く出している女子大学も、当時は午前には文学や美術や物理、午後は夫の上司へのお茶の出し方を学ばせるカリキュラムで開講し、女子学生たちは再が苦衷に将来の夫を見つけてよき妻になるという伝統的な価値観に固執していた。そこへ自由な精神で自分の信念に従って行動する美しい女性教師キャサリンがあらわれる。

題名の『モナリザ・スマイル』はレオナルド・ダ・ビンチの「名画「モナ・リザ」の不思議な微笑とこのキャサリンの美しい笑顔とを重ねあわせてつけられている。開放的なカリフォルニアから、閉塞的で伝統主義の東部の名門女子大に乗り込んだキャサリンの持っていた野望と挫折と嘆きが、映画が展開するにつれてキャサリンの表情に去来する。時々見せるキャサリンの大きな笑顔が、ともすると陰影を持って捕らえられるのは、気のせいだけではあるまい。

時代の転換期にあって変化し続ける人間と人間のぶつかり合いが、当事のさまざまな文化的背景を伴って描かれた作品である。

映画セリフ (Movie Line)

以下のセリフは、である。

‘—What will the future scholars see when they study us? A portrait of women today? Here you are, ladies. The perfect likeness of a Wellesley graduate. Magna cum laude, doing exactly what she was trained to do. ...’ (SP p.)

— Half of them are already married. And the other half, oh, just give it a month or so. I mean, it’s really only a matter of time. That’s what they are doing here, right? They’re just biding time until somebody proposes!’
(SP p.)

『モナリザ・スマイル』‘Mona Lisa Smile’ (2003) 作成日:2010/3/3 作成者:國吉 初美
ジャンル:ドラマ(恋愛、学園生活・近現代西洋美術史)
(初級～中級向け)

キャスト&スタッフ(CAST & ATAFF)

監督: マイク・ニューウェル

脚本: ローレンス・コナー、マーク・ローゼンタール

主演: ジュリア・ロバーツ

: キルスティン・ダンスト、ジュリア・スタイルズ、マギー・ギレンホール、
ジェニファー・グッドウィン、ほか

Mike Newell

Lawrence Kenner, Mark Rosenthal

Julia Roberts

Kirstin Dunst, Julia Styles, Maggie Guillenahall, Jennifer Goodwin

・<映画分析>・

●ジャンル (genre) ドラマ

●トピック / テーマ (Theme) / メッセージ (Effective Information)
・女性の自立、自由な精神、1950年代アメリカ社会と文化

●文化 (culture)
・女性と教育、50年代アメリカ社会と文化

●言語 (language)
・米語 学校の授業での英語、美術用語

●映像＋音声 ⇒ teachable scene
DVD: ‘Mona Lisa Smile’ C-* (*****)

教材適用度

・初～中級向け

●映画リテラシー

映画は、第2次世界大戦以降のアメリカ社会における女性の台頭を、東部名門女子大学ウェルズレー校を舞台にとって展開する。女性に向けて、結婚と子育て以外の生き方が開き始めた時代である。

●資料

Screenplay: 映画完全セリフ集「モナリザ・スマイル」SP出版

自主制作教材: English Through Movies 3

DVD: 『モナリザ・スマイル』 ‘Mona Lisa Smile’

『モナリザ・スマイル』教材 : Teachable Scene

シーン 1 : 新学期の始まり	DVD C-9 Approx. 36:00 SP p.66
-----------------	----------------------------------

場面の説明 (Outline of the scene)

映画の冒頭は、ウェルズレー校の新学期始まりの式から始まる。代表の学生が、木槌で二度チャペルのドアをたたく。建物の中から、カー学長が質問をし、代表学生がそれに答える。

PRESIDENT CARR: Who knocks at the door of learning?

STUDENT: I am every woman.

PRESIDENT CARR: What do you seek?

STUDENT: To awaken my spirit and dedicate myself to knowledge.

カー学長は扉をたたくものの望みを聞きただし、学生は、それをのべる。「扉をたたくものは誰?」「すべての女性の代表です。」「何を望むのか?」「一生懸命に学び自身の魂を目覚めさせ、私を知識にささげます。」

PRESIDENT CARR: Then you are welcome. All women who seek to follow you can enter here. I now declare the academic year begun!!

カー学長はその望みを認め、学生の入場を許し、その学生に続くすべての学生に門戸を開け放す。学生たちのチャペルへの入場が続き、式が始まる。この儀式は、キリスト聖書の一節にある、「叩けよ、さらば開かれん。」に、のっとっていると考えられる。当時のアメリカ社会では、まだ男性優位であり、女性が大学の学位を手にするのは珍しかった。アメリカでも有数の東部の名門女子大のウェルズレー校で、その女性進出の旗手を果たすという大学の誇りを垣間見せる 1 シーンである。それは、ウェルズレー校のキリスト教精神にのっとった女性の自立と自己開拓の精神を育成するという使命を象徴するような受け答えである。

シーン 2 : ナンシー先生の授業	DVD C-9 Approx. 36:00 SP p.66
-------------------	----------------------------------

この映画の中ではさまざまな大学の授業の様子を見ることが出来る。体育の授業でのシンクロナイズスイミングの様子、イタリア語のイマーション形式による授業、ナンシー先生のマナーの授業、そしてもちろんキャサリン先生の現代美術の授業である。ここでは、ナンシー先生のマナーの授業を見ながら、当時のアメリカの大学での典型的な授業形式を観察しよう。

まず、授業では状況の擬似設定が行われる。

NANCY: Your husband is at a crossroads in his career. He is competing for a promotion against two rivals, Smith and Jones.

The girls begin taking notes while she speaks.

NANCY: To get the edge, you have wisely decided to invite the boss and his wife to a 7:00 dinner. You've carefully planned your meal, set your table and arranged for a babysitter.

生徒たちは結婚をしていて、夫は昇進の岐路にあり、二人のライバルと競り合っている。有利にたつために、妻である生徒たちは、上司夫妻を夕食に招くことに成功をして、手はずを整えた。ナンシー先生は、起こりうるアクシデントの設定をして、どのように対処するかと生徒たちに疑問の提示をして、きわめて実践的な授業が展開される。この授業の目的はただひとつ、よき妻と母になることである。

NANCY: ...But the thing is, it's not a joke. A few years from now your sole responsibility will be taking care of your husband and children.

NANCY: You may all be here for an easy A, but the grade that matters the most is the one he gives you, not me. ...